

福島潟シンポジウム2020

ハクチョウと新潟

日本一のハクチョウ越冬地～越後平野の潟と田んぼ



2020

11.1 日

参加無料

スペシャルトーク

市民代表

遠藤麻理

フリーアナウンサー

潟代表

大熊 孝

ビュー福島潟名誉館長

野鳥代表

岡田成弘

日本野鳥の会新潟県

「新潟にハクチョウは何羽いるの？」そんな素朴な質問をきっかけに、新潟県水鳥湖沼ネットワークは生まれました。ハクチョウやヒシクイが越後平野に飛来する10月から3月の約半年間、行政、市民、NPOなど立場の違いを超えて有志が協力して毎週金曜日の早朝にカウント調査を行ってきました。各湖沼からの貴重な情報を共有、各地から情報発信され様々な活用されてきました。2000年から始まったこの活動は、今年20周年を迎えました。いろいろわかってきたハクチョウの生態、彼らの暮らしから見える新潟の自然や環境についていっしょに考えてみませんか。

福島潟シンポジウム2020 ハクチョウと新潟
日本一のハクチョウ越冬地～越後平野の潟と田んぼ一日時：2020年11月1日(日)午後1時30分から午後4時
会場：水の駅「ビュー福島潟」6階展望ホール
(新潟市北区前新田乙493)
定員：30人 要申し込み、先着順、参加無料
お申し込みは電話で水の駅「ビュー福島潟」まで
電話：025-387-1491

主催：水の駅「ビュー福島潟」、新潟県水鳥湖沼ネットワーク / 協力：新潟国際情報大学映像ボランティアチーム

後援：関東地方環境事務所、新潟市、阿賀野市、新潟県野鳥愛護会、日本野鳥の会新潟県、瓢湖の白鳥を守る会、NPO法人バードリサーチ、NPO法人なっとわーく福島潟



新潟市の鳥 ハクチョウ

福島潟シンポジウム2020

ハクチョウと新潟

日本一のハクチョウ越冬地 越後平野の潟と田んぼ

「新潟にハクチョウは何羽いるの？」そんな素朴な質問をきっかけに、新潟県水鳥湖沼ネットワークは生まれました。ハクチョウやヒシクイが越後平野に飛来する10月から3月の約半年間、行政、市民、NPOなど立場の違いを超えて有志が協力して毎週金曜日の早朝にカウント調査を行ってきました。各湖沼からの貴重な情報を共有、各地から情報発信され様々に活用されてきました。2000年から始まったこの活動は、今年20周年を迎えました。いろいろわかってきたハクチョウの生態、彼らの暮らしから見える新潟の自然や環境についていっしょに考えてみませんか。

動画公開

参加無料

動画で観る

シンポジウムの様子をインターネットでご覧いただけます。シンポジウムから順次公開していきます。動画サイトへのアクセスは右のQRコード、または「YOUTUBE ビュー福島潟」で検索してください。



ライブで参加する

シンポジウムにライブ参加いただけます。新型コロナ対策で30人限定とさせていただきます。以下にて申してください。当日受付はありません。参加無料。

日時 **2020年11月1日(日)**

午後1時30分から午後4時

会場 水の駅「ビュー福島潟」6階ホール

定員 30人(要申し込み、先着順)

申込・問合せ 受付開始10月7日から
電話：**025-387-1491**

プログラム

動画上映	「空から見たハクチョウと新潟」
基調講演	「雪国の平野に渡り来る ハクチョウたち」 岡田 成弘(新潟県水鳥湖沼ネットワーク)
紙芝居上映	「わたると新潟」
ミニトーク	「世界の中の新潟・ハクチョウ」 神山 和夫(NPO法人バードリサーチ)
スペシャルトーク	遠藤 麻理×大熊 孝×岡田 成弘 (市民代表) (潟代表) (野鳥代表)

出演者紹介(五十音順)

○遠藤 麻理 えんどう まり/フリーアナウンサー・作家
新潟市出身。2020年6月30日の閉局までFMPORT「モーニングゲート」のナビゲーターを務め、8月からBSNラジオ「四畳半スタジオ」(月～木13時～14時40分放送)パーソナリティー。著書に『自業自毒～平成とわたの史～』(新潟日報事業社)など。



○大熊 孝 おおくま たかし/ビュー福島潟名誉館長
新潟大学名誉教授(河川工学・土木史)。1942年台北市生まれ。自然と人の共生関係を目指す。河川・湖沼の治水や景観保全に尽力している。近著に「洪水と水害をとらえなおす～自然観の転換と川との共生～」(農文協、2020年5月)がある。



○岡田 成弘 おかだ なりひろ/日本野鳥の会新潟県副会長
新潟県生まれ。北里大学卒業。専門 環境生態学。野鳥講演、自然観察会の講師を通じて自然科学の楽しさを伝えるとともに、雪国に生息する鳥類の生態調査・研究を行う。著書に「雪国の四季を生きる鳥(共著)」(新潟日報事業社)などがある。



○神山 和夫 こうやま かずお/NPO法人バードリサーチ研究員
大阪府出身。環境省が実施する市民参加型調査「モニタリングサイト1000」のガンカモ調査の事務局を務め、ハクチョウの個体数について全国の分析を行っている。ドローンを使った空撮調査など新しい調査方法も実験中。



主催：水の駅「ビュー福島潟」、新潟県水鳥湖沼ネットワーク / 協力：新潟国際情報大学映像ボランティアチーム

後援：関東地方環境事務所、新潟市、阿賀野市、新潟県野鳥愛護会、日本野鳥の会新潟県、瓢湖の白鳥を守る会、NPO法人バードリサーチ、NPO法人ねっとわーく福島潟